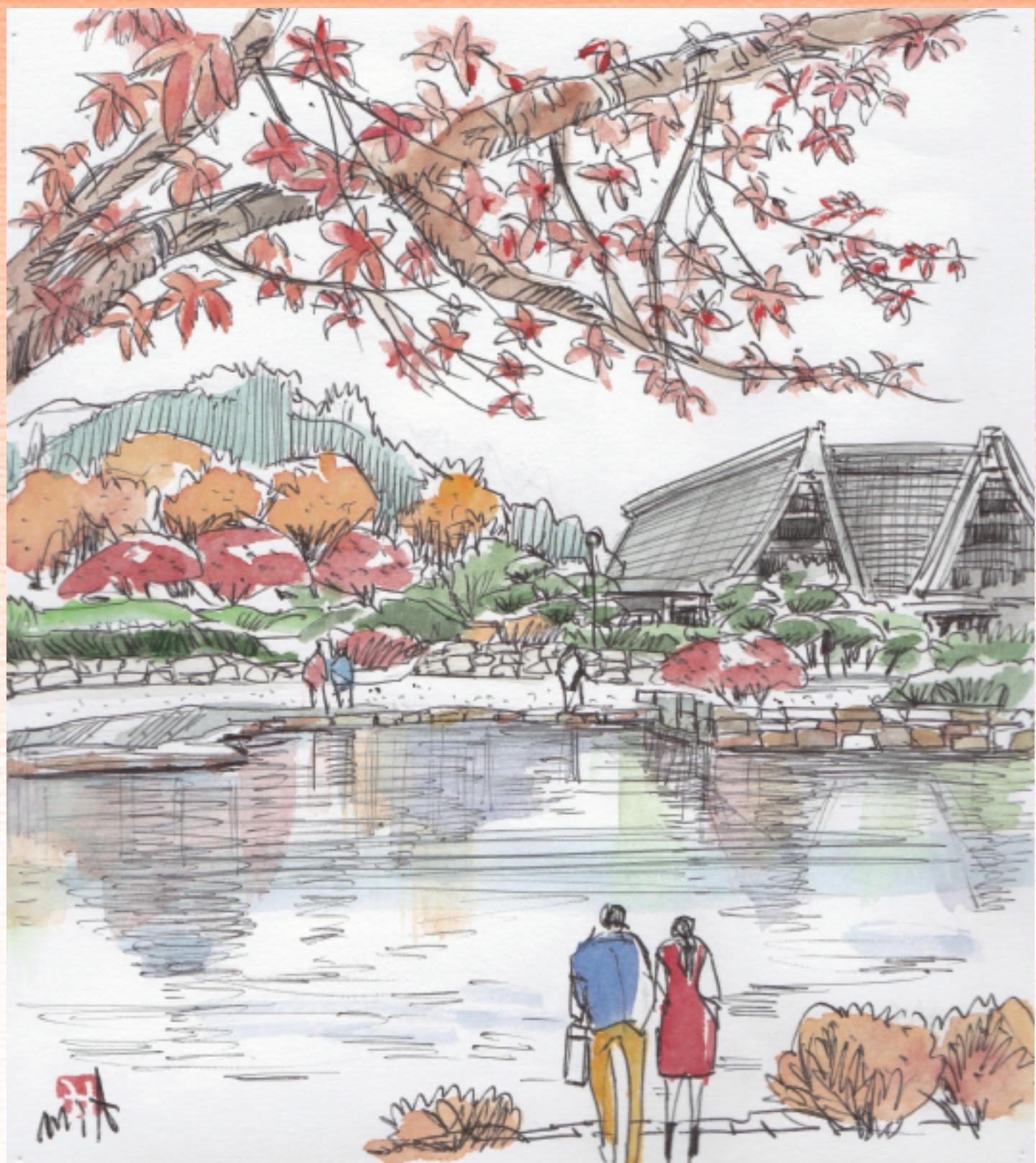


ICC Kyoto

公益財団法人 国立京都国際会館広報誌

秋
2015
AUTUMN



Kyoto International Conference Center

世界博物館大会の京都開催を機に 新たな文化戦略の展開を

世界のミュージアム関係者らでつくる国際博物館会議（ICOM）。本年6月パリで世界大会開催地決定の諮問委員会が開かれ、2019年の第25回世界博物館大会（ICOM2019）が国立京都国際会館を主会場に開催されることに決定しました。世界大会は3年に一度の開催で、アジアではソウル（04年）、上海（10年）に次ぐ開催となります。大会は7日間にわたって世界のミュージアムが抱える課題について討議されます。今回はICOM日本委員会委員長として、誘致成功に尽力された青木保氏にご登場いただき、来るICOM2019に向けた抱負や取り組みをお聞きしました。



ICOM日本委員会委員長 国立新美術館館長
青木 保氏

1938年東京生まれ。人間科学博士（大阪大学）。大阪大学・東京大学・政策研究大学院大学で教授を務める。ハーバード大学客員研究員、仏国立パリ社会科学院高等研究所客員教授、独コンスタンス大学客員教授なども務めた。また1965年以来東南アジアを中心にフィールドワークに従事。タイ・バンコクの仏教寺院で度修行（72年～73年）。07年4月文化庁長官に就任（～09年7月）。12年1月に国立新美術館館長に就任。13年よりICOM日本委員会委員長。『儀礼の象徴』（岩波書店・サントリー学芸賞）『日本文化論』の変容（中央公論社・吉野作造賞）『異文化理解』『多文化理解』（以上、岩波新書）など著書多数。



本年6月 ICOM 諮問委員会（パリ）

ICOM2019の京都開催が決定

木下博夫館長（以下、木下） 今年6月パリでのICOM諮問委員会にご一緒させていただき、京都決定の瞬間に立ち会うことができ嬉しく思っています。誘致成功までの経緯をお聞かせください。

青木保氏（以下、青木） 2013年の春に、国立科学博物館長をなさっていた近藤元文化庁長官がいらして、実はICOMという組織がある、3年に一度の世界大会を日本に招致したい、についてはその日本委員会の委員長になってほしいとの打診がありました。どうして私がと思いましたが、いろいろ国際的な活動をしているから、汗をかかせようということだったと思います（笑）。ICOMという組織は日本では知名度が低く、私もそれまで全然知らなかったのですが、よく知らないけど世界130ヶ国以上が加盟する大組織とのことで、大きな意味はあると思いました。

最近の開催都市は、2010年が上海、13年がリオデジャネイロ、次回の16年はミラノで開催されます。そしてその次の19年に日本に招致しようということになりました。当初はカザフスタン、カタールが非常に熱心で、アメリカ・シンシナティも名乗りを上げました。日本は20年が東京五輪ということもあり、文化都市・京都を開催都市候補に名乗りを上げようということになりました。

木下 今年5月に京都国立博物館で開催された「国際博物館の日シンポジウム」で、開催経験のある韓國の方のお話しをお聞きし、大いに参考になりました。特に大会開催により文化行政、博物館行政のあり方が大きく変わったとの報告があり、19年の大会を将来に良い成果を残す機会にしなければと思っています。

青木 グローバル社会の中では、国家のイメージが良くないと経済的・政治的な影響力も発揮できません。韓国・中国とも世界大会を開いたことが、内外での文化政策・行政の大きな推進力となりました。文化のイメージを優先するようになり、結果的に美術館・博物館が重要視されることになりました。日本はアジアにおける近代的な美術館・博物館の先駆者ですから、世界大会開催は本当に遅きに失したことだと思います。

京都の総力を結集し世界大会を成功に

木下 最終的に、カタールをはじめ数カ国が降りて日米の決戦で京都が大勝しました。しかしアメリカは、国益に関わるとなると外交政策として積極的に力を入れてきましたね。青木さんも最後まで積極的にロビー活動をされました。

青木 カタールの代表に呼び出され、カタールに来たことがあるか

国際博物館会議 International Council of Museums (ICOM)

世界137の国および地域から博物館の専門職員約3万人が会員として参加している。専門分野別に30の国際委員会があり、それぞれに国際会議や研究集会を実施している。本部事務局はパリにある。ICOM2019京都大会は、2019（平成31）年9月1日から7日までの7日間開催予定。世界117カ国から2千5百人（外国人2千人）の参加が予定されている。

と訊かれたので、もちろん訪問したことがあり、とくにイスラム博物館がとても良かったと言うと、ではわれわれ湾岸諸国は日本を支持すると言ってくれたりしました（笑）。

事前のPR活動でアメリカは最初、関係者170人を招聘すると言いましたので、われわれは200人とアピールしました。当日のスピーチはアメリカが先で、シンシナティ市長が登場し、250人招待するとかさ上げしてきました。そこでわれわれはこれまで「Up to 200」と言っていたのを、本番では「More than 200」と修正した（笑）。そういう一種、国際政治の駆け引きのようなこともありますね。

木下 最近、中央省庁移転問題で京都に文化庁を誘致するという動きがありますが、それを後押しするためにも今回の世界大会を成功させなければいけませんね。

青木 京都で開催すること自体は素晴らしいのですが、成功させるには地元の方々のしっかりしたサポート体制が不可欠ですね。行政・財界・学術・文化分野をはじめ、京都という都市と人々の総がかりでの協力をいただくことが何よりも先で重要だと思っています。この世界大会はさまざまな相乗効果が期待でき、いい結果を残せば必ず後につながります。それに全世界から数千人が集まる一大観光イベントでもありますから。

日本では美術館・博物館は生活に密着しているとは言いがたいですね。有名な展覧会には大勢の人が行きますが、家族で行くとか会社帰りに立ち寄るとか、生活に根付いていないように見受けます。欧米諸国の美術館では、小・中学校の生徒たちが作品の前に座り、先生とディスカッションする光景をよく見かけます。この機会に、日本でも美術館・博物館に対する関心が高まればいいと思います。もっと身近な存在となるように心がけたいと思います。

木下 文化はスポーツとも密接につながっています。2019年のラグビーW杯は大阪・神戸を含む全国15会場での開催。20年の東京五輪をはさんで、21年には

関西ワールドマスターズゲームズ、30歳以上ならだれでも参加できる参加型の世界スポーツ祭典で、これについては関西広域連合が横断的に取り組んでいるところです。こうしたタイミングを見るまでもなく、関西および京都全体の力強いサポートが必要ですね。

文化戦略から始まる 国家のイメージづくり

青木 21世紀の世界では、国をはじめ各方面が文化を支援し発信することが、国際社会において経済的な活力や政治的な影響力を高める時代になってきました。今年の夏に国立新美術館で「ニッポンのマンガ・アニメ・ゲーム」という展覧会を行いましたが、来年2月にミャンマー・ヤンゴンに巡回します。いまミャンマーには世界各国の企業が殺到しています。

ところが現地の日本企業の方々は、日本のイメージがあまりに希薄すぎるというのです。いつの間にか中国・韓国のイメージの方が大きくなってしまっている。韓国は文化イメージ戦略が巧妙で、まず地元TVで魅力的な韓流ドラマなどを放映し、その後、経済面でアプローチする。かつては経済が先で文化が後でしたが、いまは文化が経済をリードする時代です。現地の日本企業からも大使館からもそういう要望が出てきています。

木下 日本の伝統文化はとても多彩ですが、現在進行中の日本を知っていただくにはマンガ・アニメ・ゲームというのは格好のメディアですね。

青木 20世紀初めにジャポニズムが注目された時代がありました。しかしそれはアートの世界での出来事です。現在のマンガ・アニメ・ゲームは日常の世界です。日本の文化が世界のすみずみにまで浸透したのはこれが初めてです。とくにアジア諸国（30代、40代）のリーダーの多くは日本のマンガ・アニメ・ゲームで育っていますから、いまや日本へのイメージが大きく変わろうとしています。マンガを読みたいから日本語を習う、という学生が世界にはたくさんいま

木下 当館も日本を代表する国際会議場として、皆さんのお力添えをいただきながらしっかりと責任を果たしたいと思います。

京都で、会いましょう。

Kyoto International Conference Center



す。マルクスの「資本論」やドラッカーやの経営哲学など、マンガで楽しめる時代になりました。

木下 当館は来年で設立50周年を迎えます。現在、収容人員5千人規模の新ホール建設に取りかかっていますが、何とかICOM世界大会までにと願っています。

青木 ICOM本部から視察官が京都に来られたとき、ここ国立京都国際会館にもご案内しました。私も改めてじっくり見学しましたが、ほんとうに圧倒されました。ICOMの方々も感銘を受けたことと思います。もしこの会議場がなければ、京都誘致は難しかっただろうと思います。大きなプラス材料になりました。新ホールができれば、まさに日本を代表する国際的な文化施設ですね。

美術館も積極的に文化発信し、文化外交の一翼を担う時代だと思っています。ちなみに、今般のマンガ・アニメ・ゲームの展示会は、日本の美術館としては初めての試みで、アジアの後ヨーロッパ、アメリカ、ロシア、オーストラリアなどの巡回を計画しています。

木下 当館も日本を代表する国際会議場として、皆さんのお力添えをいただきながらしっかりと責任を果たしたいと思います。

（文中敬称略）

インタビュー◆木下博夫
1943年生まれ。国土交通省次官、阪神高速道路（株）社長等を経て2012年より国立京都国際会館館長・常任理事を務める。

REPORT ICC Kyoto

東アジア地域包括的経済連携
(R C E P) 交渉会合
2015年6月8～13日
国立京都国際会館

豊かな経験を活かし機敏できめ細やかな運営を追及
長期間におよぶ政府間交渉会合を成功に導くため



2015年6月8日から13日まで、国立京都国際会館で東アジア地域包括的経済連携(R C E P)の第8回会合が開催されました。日中韓や東南アジア諸国連合(ASEAN)など16カ国から計700名(海外500名)の政府関係者が参加、高級実務者レベルのほかさまざまな専門家交渉が繰り広げられました。交渉終了が14日未明に延長されるなど、予期せぬ事態もありましたが、当館の豊富な国際会議の経験を活かし的確に対応、その運営能力に対し議長、主催者、参加者から高い評価をいただきました。



議長・参加者からの高い評価

7日間に及んだ会合中および会合終了後、R C E P議長や参加者から、口々に会合の運営を高く評価するコメントが寄せられました。R C E PはTPP(環太平洋経済連携協定)と並ぶ大型の自由貿易協定であり、当初より各国間交渉は難航が予想されていました。しかしながら、停滞する議論を一気に前進させたいという参加国の「強い意志」により、7月と8月に連続して閣僚会議を開くことが決定されるなど、大きな成果が得られる結果になりました。議長や参加者からのコメントは、このR C E P会合成功のために協力した主催者・参加者全員に対する賛辞であり、かつ開催地である京都、そして運営を支えた当館に対する感謝のメッセージでもあります。

この会合は準備段階からいくつかの課題が挙げられていました。京都国際会館での開催が正式に決定されてからの時間的余裕がなく、しかも参加国数が多かったこと。また、大小さまざまな交渉会合が長期間にわたり各ルームごとに同時進行で行われるため、想定外の事態に対する対策が求められること。そして、アジア地域から宗教・民族・文化・習慣の異なる16カ国700名が参加するため、それぞれの習慣に適合するきめ細かい配慮とサービスが求められること。こうした多くの国が参加する国際会議特有の課題が指摘されるなか、その克服に向けて緊張のスタートとなりました。

続出する予期せぬ事態に適切に対応

7日間の会期全体を通じて懸案事項となったのは、必要な機器・備品類の手配です。会合直前まで参加者数など詳細な確定ができず、そのときどきの状況に応じた流動的な対応が求められたのです。とくに近年、音響・映像・LAN・Wi-Fiなど最新コミュニケーション機器の要望が高まり、会議のスタイルが大きく変化するなか、できるだけ早い段階での機材機種の選定と手配数の把握が求められました。

また、会期スケジュールや会場レイアウトなど突然の変更も頻発しましたが、当館スタッフと協力会社が一体となった周到な編成チームを駆使し、進行に支障をきたすことなく適切に対応することができました。

ハードな交渉会合であることを象徴するかのように、最終日には会合が翌日未明にまで延長されたという緊急事態が発生、それに伴うケータリング手配や記者会見の再アレンジなど、夜を徹した当館スタッフ一丸となるチームプレーで難局を切り抜けることができました。

参加国の宗教・趣向に考慮した食事対応

今回の最大の課題の一つは食事サービスの提供でした。レギュラー食のほかビーガン食(ベジタリアンより厳格な絶対菜食主義者用メニュー)、ムスリム食(ムスリム・ウェルカムメニュー)に加え、アレルギー対策メニューも用意することに決定。

さらに、各参加国の名物料理を日替わりで用意し、各種料理ごとに専属のサービススタッフを配置。調理法は可能な限り現地の味に近づけることをモットーに、総料理長以下シェフらが各国料理店などに取材しレシピ入手するなど調査・試食を繰り返し、徹底した準備作業を行いました。

その準備のなかで、食材・香辛料類の確保という難題に直面しました。各参加国の料理に用いる多品種の食材を、通常ルートで確保するのはほぼ不可能に思われました。しかし、国内外のあらゆる手段・ルートを駆使し、必要な食材の調達に成功しました。

このほか、各参加国の料理以外に、程よく日本・京都ならではの和食を提供。また、コーヒーブレーク時のデザート菓子の細やかな心配りなど、参加者それぞれに満足いただけるサービスをお届けしました。これらはすべて、朝から夜まで会議が続く参加者にリフレッシュしていただき、かつ長期間の会議にも飽きさせないための趣向です。

そうしたこころのこもったおもてなし伝わったのか、食事の場では自国の料理自慢で盛り上がるなど、交流を深める絶好の機会ともなり、今会合の大きな成功要因のひとつとして評価されました。

日本を代表する国際会議場として

こうした参加国が多数に及ぶ国際会議では、いかに周到な準備をしても、いつどのような事態が発生するか予測できません。そうした想定外の事態に遭遇しても、冷静かつ沈着、臨機応変に対応できる経験とノウハウこそが、コンベンション運営のエキスパートに求められる資質なのです。

主催者の意向を最優先にしつつ、会議の性質の理解に努めるとともに、ただ求められるサービスを提供するだけでなく、参加国それぞれの、そして参加者一人ひとりのこころの機微にふれるプラスアルファのおもてなしこそが、われわれに求められる役割だと確信します。

今回のR C E P会合は、われわれに多くの教訓を与えてくれました。国際間交渉の重要度が高まるなか、日本を代表する国際会議場としての自覚を持ち、今回の教訓を今後の国際会議運営に活かし、さらなるサービスの向上を目指します。



ランチメニューにはレギュラー食、ビーガン食、ムスリム食、アレルギー対策メニューの4種類をご用意したほか、各参加国の日替わりメニューや名物料理もご用意。参加者の皆さんに高い評価をいただいた。今後は和食をベースにしたムスリム食の開発にも取り組む予定。



好評だった「特製京の彩りミニ懐石」

R C E P 東アジア地域包括的経済連携 Regional Comprehensive Economic Partnership

ASEAN10カ国と日本・中国・韓国・オーストラリア・ニュージーランド・インドの6カ国が参加する広域経済連携。

2011年にASEANが提唱し、12年に同首脳会合で交渉が立てられた。R C E Pが実現すれば、人口約34億人(世界の約半分)、GDP約20兆ドル(世界全体の約3割)、貿易総額10兆ドル(世界全体の約3割)を占める広域経済圏が出現する。

Topics

国立京都国際会館 主催イベント

開催予告

ICC Kyoto 国連シリーズ1

国連創設70周年・2015国連デー記念シンポジウム
日本と国連—京都から世界平和を願って—
2015年10月25日(日) 13:00 ~ 18:00
国立京都国際会館 Room A 入場無料

10月24日は「国連デー」、国連の発足を祝う世界的な記念日です。今年は国連創設70周年、そして来年は日本の国連加盟60年という節目の年。世界の平和と安定を確保するため、国連の役割がこれまで以上に重要視されるなか、国連デーを祝し記念シンポジウムを開催します。



ジムを開催します。

本シンポジウムは国連協会京都本部と京都国際会館との共催。関西学院大学副学長の神余隆博氏による基調講演に続き、国際問題についてグローバルな視点でメディアなど多方面で活躍されている方々をお迎えし、「日本と国連」と「若者へのメッセージ」をテーマにした2部構成のパネルディスカッションを行います。日本と国連のかかわりを考え、世界の平和と安定に向けたメッセージを京都の地から発信しようとするものです。

第60回 秋の宝松庵茶会

2015年11月15日(日)

茶道をたしなまれる方から初心の方まで、多くの方々で賑わう秋の定例茶会。今年も一期一会の精神で皆さまをお迎えいたします。本席のほか副席、点心席をご用意、豪華景品が当たる抽選会、植物やベンガラを染料に使ったハンカチ染めや、糸の代わりに手で裂いた布を用いる裂き織ティーマット作製の実演などもご体験いただけます。洛北宝ヶ池のほとり、豊かな自然に恵まれた京都国際会館・宝松庵。モミジやツツジなど、鮮やかな紅葉に彩られた庭園で、深まりゆく秋を感じながら、和やかなひとときをお過ごしいただけます。

ICC Kyoto 国連シリーズ2

国連創設70周年記念シンポジウム
未来を担う若者たち

2015年12月12日(土) 10:00 ~ 13:00
国立京都国際会館メインホール 入場無料

国連シリーズ1に引き続き、第2弾を開催!! 21世紀を担う高校生・大学生に期待すること、これからの中連について討議します。元国連事務次長の明石康氏による「国連とともに歩んだ人生」と題しての基調講演や、グローバル社会の現状と課題、自分の将来の可能性について、明石氏と学生たちがともに話し合うクロストークを行います。国連活動をテーマとした参加型シンポジウムで、若者のグローバル社会での活躍の可能性を広げる場を提供します。皆様のご参加お待ちしております。



明石 康氏（元国連事務次長）
1957年国連入り。広報、軍縮、人道問題担当の国連事務次長、カンボジアや旧ユーゴスラビア担当の事務総長特別代表を歴任。現在、公益財団法人国際文化会館理事長。

開催報告

京都・フィレンツェ姉妹都市提携50周年記念 **乾杯の夕べ 2015 ~Ciaoイタリア!**

2015年8月1日(土)

真夏の恒例行事、当館主催のガーデンパーティ。今年はイタリアをテーマ国として開催、約2千人の市民の皆様で賑わいました。当日限定の弁当のほか、特に好評だったのが京都の人気イタリア料理店による屋台料理。またイタリア文化紹介コーナーでは、世界文化遺産の写真展示やオリーブオイル＆ワインセミナー、イタリア語講座などが開かれ、水上ステージではギター弾き語りや大抽選会など、多彩なイベントで皆様にお楽しみいただきました。もちろんフィナーレは打ち上げ花火。光のアートが夜空を焦がすと会場は最高潮に。年々来場者が増え、夏の風物詩として親しまれています。



児童絵画展

～京都国際会館から世界へ～
8月1日(土)

「乾杯の夕べ」と同日に京都・フィレンツェ姉妹都市提携50周年を記念して、両市の子どもたちの絵画作品約110点を展示。お子様連れのご家族をはじめ、多くの皆様に鑑賞いただきました。また、イタリアの絵本展示や、「昔ばなし」を研究するイタリア人女性による読みかたりとおはなしもあり、子どもたちにとって国際交流を体験するいい機会になりました。



2015年
10月~12月

開催予定イベント・会合一覧

2015年10月1日現在

催事名	日程	人数
科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム (STS フォーラム) 第12回年次総会	10月 3日～6日	1,000
平成27年度京都府戦没者追悼式	10月 8日	2,000
第56回京都ユネスコ協会自然観察展	10月 9日～11日	600
MATSUSHIMA MOTOR CAFE	10月 10日～11日	3,000
ブレム・ラワット氏出版記念講演会	10月 11日	1,000
医学書院看護特別セミナー パトリシア・ベナー博士来日講演会	10月 17日～18日	2,000
ICC Kyoto 国連シリーズ1 国連創設70周年・2015国連デー記念シンポジウム 日本と国連—京都から平和を願って—	10月 25日	300
第53回日本癌治療学会学術集会	10月 29日～31日	10,000
第11回京都橘大学看護国際フォーラム	11月 1日	500
琳派400年記念 古典の日推進フォーラム 2015	11月 1日	1,800
琳派400年記念 国際シンポジウム及び国際交流会	11月 2日	700
日独温暖化防止シンポジウム	11月 3日	300
第三回同志社校友会大懇親会	11月 7日	1,300
第31回京都賞授賞式・記念講演会・記念ワークショップ	11月 10日～12日	3,000
第52回日本糖尿病学会近畿地方会	11月 14日	2,000
第60回秋の宝松庵茶会	11月 15日	600
第29回京都府消防大会	11月 15日	2,000
第45回「憲法と人権を考える集い」	11月 15日	700
第31回日本診療放射線技師学術大会	11月 21日～23日	3,000
学校法人京都産業大学 創立50周年記念式典	11月 27日	1,500
第5回世界工学会議 WECC2015	11月 29日～12月 2日	2,000
“日本と京都の経済再生へ” -語るつどい	12月 5日	300
ICC Kyoto 国連シリーズ2 国連創設70周年記念シンポジウム 未来を担う若者たち	12月 12日	1,000
第18回京都市PTAフェスティバル	12月 12日	4,000
東南アジア研究所50周年記念事業 第1回 SEASIA国際シンポジウム	12月 12日～13日	500
ATACカンファレンス2015 京都	12月 18日～20日	900

※参加者300名以上の会議

ピックアップイベント

日独温暖化防止シンポジウム

COP21パリ会議の成功に向けて-京都議定書誕生の地からの提言
11月3日(火・祝)

本年11月30日からパリで開催されるCOP21(気候変動枠組条約締結国会議)への提言を行うためのシンポジウム。拘束力のある国際協定が締結され、地球規模での温暖化防止が前進することへの期待が高まるなか、環境やエネルギー分野で重要な役割を担う日独両国の政府・自治体・NPO団体・企業関係者が集い、温暖化防止に向けた具体的な経験やエネルギー効率の向上などについて意見交換します。

一般の方もご参加いただけます。10月20日(火)までに「京都いつでもコール」にて電話、FAX、またはメールでお申し込み下さい。

電話:075-661-3755 FAX:075-661-5855

第5回世界工学会議 WECC2015

11月29日(日)～12月2日(水)

世界工学会議は、世界工学団体連盟(WFEO)が中核となり、工学のあらゆる分野を横断し、技術の進化と社会への貢献について議論する国際会議です。ほぼ4年に一度の開催で、2000年ドイツで第1回が開催されて以来、今回が第5回目の開催となります。統一テーマは「工学：イノベーションと社会」。日本が21世紀においても持続可能な発展を遂げる科学技術イノベーション立国であることを紹介するとともに、地域と地球的視野の両面に立って、持続可能な発展を実現するために必要なイノベーションと、その実現を支える基盤技術の進展に焦点を当てた情報交換の場を提供し、全世界の平和と経済と社会の進歩のために実りある貢献をすること目的として、4日間にわたって開催されます。

国立京都国際会館の不思議

3

茶室「宝松庵」の知られざる見どころ

京都国際会館のお茶室はどうあるの？と思われる方もあるだろう。茶室「宝松庵」

は会館フランジから庭園に出で、宝ヶ池を前に見ながら右手奥に進んだ一角、広大な回遊式庭園のなかでも秋の紅葉が美しいゾーンにある。ところが不思議なことに、会館建物から眺めても、数寄屋造りの茶室は見えない。茶室にいざなう松並木と緑の生垣を巡らせて、外部からの視線をさえぎるように工夫されているのだという。その生垣に沿って歩を進めると、宝ヶ池を借景にした芝生の野点庭園が現れ、続いて山もみじの老樹に覆われるよう櫛皮葺の茶室が顔をのぞかせる。

宝松庵とは、宝ヶ池の「宝」と、この茶室の寄贈者である当館初代理事長・松下幸之助氏の「松」の二文字をいただき、名づけられている。経営の神さまといわれた松下幸之助氏は、お茶を愛し、とりわけ茶室という精神空間に身を置くこと



を心から愛した人であった。全国各地に氏が寄贈した茶室は数多いが、そのなかでも初期のものとして高野山金剛峯寺の茶室「真松庵」、大阪城庭園の茶室「豊松庵」（いずれも一九六五年）、続いて国際会議場が誕生した翌一九六七年に、この「宝松庵」を完成させている。

毎年春秋に行われる宝松庵

茶会に足を運ばれる方なら、すでにお気づきだろうか。京都にお茶室多しといえど、この宝松庵には知られざる見どころがある。ここは日本初の国立国際会議場に設けられたお茶室ゆえに、設計段階から多くの外国人の利用を意識した茶室づくりが行われている。具体的には、点前を行いう十畳広間と、それに隣接する椅子席である立札席が一体となつており、靴を脱がず椅子に腰掛けても参加できる。また、お茶会を外から鑑賞できるように、茶室の二面を障子戸にした開放的な設計にも特徴がある。

茶室ではめずらしいエアコン完備、防火用収蔵庫の導入なども、合理性を重んじたアイデアマン松下氏にふさわしい。茶室の設計監修は仙アートスタヂオ・大谷曰津彦氏、数寄屋大工は中村外一氏であった。

このお茶室が紅葉に包まれるもつとも美しい季節、今年も宝松庵茶会が開かれる。茶室玄関軒の板額には、「宝松庵」の三文字。その左にある「陽洲」の揮毫が、松下幸之助氏の雅号である。

文・黒田正子



表紙のことば

寺田みのる
(スケッチ作家・エッセイスト)

秋色に包まれた屋外ガーデンから建築物を見ると、そのモダニズムとスケール感が際立つ。内部は世界の人々が集まる小さな地図。個性と個性が自由に躍動する。



 **ICC Kyoto**

Kyoto International Conference Center

国立京都国際会館

検索

© All right reserved - Kyoto International Conference Center

編集発行 公益財團法人 国立京都国際会館
住所 〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池
TEL 075-705-1218
FAX 075-705-1100
E-mail com@icckyoto.or.jp
URL http://www.icckyoto.or.jp/